

2016年（平成28年）度入学式 総長告辞

「How to do」から「What to do」、「Why we do」へ
—ようこそ大阪大学へ—

ようこそ大阪大学へ

大阪大学に入学並びに進学されました学部、大学院の学生の皆さん、おめでとうございます。また、これまで長年にわたりご子弟を温かく見守り、支えてこられましたご両親やご家族の皆さまにも、心からお慶び申し上げます。

本日、11学部において3,502名の学生が、大学院16研究科の博士前期課程、博士後期課程において2,897名の学生の皆さんが、大阪大学において晴れて新たな歩を始められました。大阪大学総長として心から皆さんの入学・進学を歓迎いたします。

学生の皆さんは、受験という大きな試練を乗り越えて大阪大学の門をくぐられました。今はほっとしていることと思います。また、これからの勉学、研究やスポーツ、新しい生活や人生設計に、心が弾み期待に満ち溢れていることと思います。

皆さんの前には幾筋もの新しい道が開かれています。皆さんは在学中に多くのことを学び、経験し、豊かな見識を身につけていかれることとなりますが、大阪大学で過ごされるスタートにあたって、私から皆さんに、いくつかのことをお話ししたいと思います。

大阪大学の特徴

ご存知のように、大阪大学は地元大阪の経済界や財界、大阪府と大阪市、そして府市民の皆さまからの資金援助、そして何よりも強い熱意によって、1931年に第6番目の帝国大学として創設されました。

その源流は、江戸時代に創設された「懐徳堂」と「適塾」に見出すことができます。「適塾」の建物は現在も残っており、国の史跡、重要文化財に指定されています。この二つの学問所は幕府や藩によって設置されたのではなく、市民による市民のための学校として設立されたものです。大阪大学は、この二つの学問所の学風と精神を今も継承し、先進性とたゆまぬ挑戦性を基軸として、教育研究に取り組んでいます。

また、2007年には、大阪外国語大学との統合という大事業を成し遂げましたが、大阪外国語大学の前身である大阪外国語学校もまた、海運関係の実業家のご夫妻からのご寄附により設立された学校です。

このように、官立でありながら民の力で教育や人材育成のため、学校、大学を成長させてきたという大阪は、特筆すべき都市だと言えます。

現在、大阪大学は、11 学部 16 研究科を擁する総合大学です。学部学生数は 1 万 5 千人を超えております。この数は、日本の国立大学の中で最大です。また、女子学生の数も国立大学最大となっています。それとともに、大阪大学は留学生の派遣と受入れにも力を入れています。その数は毎年増え続けており、例えば、外国人留学生は 2015 年度には約 2,000 名を受け入れておりますが、この数は 10 年前の約 2 倍となっております。

このように皆さんが入学、進学された大阪大学は、特筆すべき歴史と設立の経緯を経て、現在の発展に至っています。こういったことを知ることも学びの一つであり、勉学への励みにもなります。そのためにも、是非、現存する適塾や豊中キャンパスの一角にある総合学術博物館に足を運んでみてください。

大阪大学の教育

大阪大学が 2004 年度からの国立大学法人化を迎えるに当たり定めた教育目標があります。それは、判断の前提となる「教養」、豊かな構想力を支える「デザイン力」、そしてグローバル社会で活躍するための「国際性」を重視した人材育成をすることです。加えて、「コミュニケーション力」を養う教育も実践しています。

「教養」とは、一般的には、学問・知識を身につけることによって養われる心、精神の豊かさを言いますが、少し踏み込んで考えてみましょう。例えば数学の図形問題で、何も無いところに補助線を引くことによって解が導かれることがしばしばあります。補助線の引き方は一通りではなく、幾通りにも引ける場合があり、それぞれ解法も異なってきます。その幾通りにも補助線を引ける力、すなわち、解くべき問題は同じでも、その問題を複眼的に捉えて解への道筋を考えることができる力を「教養」と言ってもよいでしょう。

「デザイン力」とは、ある課題に直面した時に、与えられた環境、決められた拘束条件のもとで、最適の解を導き出す問題解決能力を言います。例えば、建築物の場合なら、与えられた敷地面積、予算、さまざまな法規制、周囲の環境や特性、加えて依頼主の意向などを総合的に勘案してベストな設計をしていく能力、すべてをクリアして仕上げ、遂行する力を指します。

つまり、教養とデザイン力を身につけることによって多角的な視点から問題を捉え、与えられた状況のもとで客観的な指標に基づく最適な解を導くことができるというわけです。

「国際性」については、大阪大学のモットーである「地域に生き 世界に伸びる」を体現できるような学生の育成、つまり、地域に根差しつつ海外にも目を向け、世界で活躍できる技量や才能を伸ばす教育を実践するようにしています。例えば、今日は国内の山間部で地域に溶け込み、土地の住民と生活しながら、フィールドワークをしているかと思えば、数日後にはニューヨークにおいて国際会議の檜舞台で研究発表をしている、というような学生です。ローカルな立場とグローバルな視点を併せ持つ学生、つまり、「グローバルな学生」の育成を目指しています。

「コミュニケーション力」とは、人と人が顔を向き合い、言葉と言葉でしっかりと話し合う「対話」を意味します。電子メールなどが主要な情報伝達手段となった現代社会において、人間同士が向き合うことは少なくなってきました。連絡事項の伝達、例えば、待ち合わせ場所の確認などには電子メールは便利ですが、対話とは、異なる意見を戦わせることでもあります。近年、このようにお互いの考えを対面でじっくりと話し合うことなく、一方的な思い込みによる行動がさまざまな深刻な問題を起こしています。「コミュニケーション力」を備えることは、皆さんがこれから大学生活を送るうえで、また、社会に出てからも最も大切なことだと考えます。

先程申し上げましたように、皆さんが地域で信頼されると共に世界で知的な議論に参加し、活躍できる人材になるためには、生まれて最初に習い覚えた言語、つまり母語である日本語でのコミュニケーション能力を磨くことが大事です。母語でできないことは外国語ではもちろんできないからです。一方で、世界における知的な議論が英語を使って行われていることは、皆さんご存知の通りです。そこに参加していくには、海外旅行で役立つ程度の日常会話の英語ではなく、知的な内容について説得力を持って語ることでできる英語力が必要です。大阪大学は、このような知的な議論に参加できるような英語力を身につけるために、さまざまな教育プログラムを準備しています。グローバル化した世界を生きていくための知的基礎力を備えるために、是非、これらのプログラムにチャレンジしてください。

大阪大学は、学部学生、大学院生の皆さんが、自ら「教養、デザイン力、国際性、コミュニケーション力」の四つの力を十分に身につけられるよう、可能な限り支援します。

大学で学ぶということ

さて、学生の皆さんは入学、あるいは進学のための試験に合格するために、例えば、1点でも多く点数を取るためにどうしたらよいか、そのための対策は何かということで大変な努力をして来られたと思います。どのような科目、どのような問題に取り組まなければならないかという前提が明確に与えられているなかで、「どうすべきか」、つまり、「How to do」ということに主体をおいた勉学をされてきました。

大阪大学に入学、進学された皆さんにとって、今後より強く求められてくるのは、どのような授業科目を選択して自身の進路を切り開いていくのか。どのような研究テーマで卒業研究、修士論文、博士論文の研究を行うのか。さらには、将来、どのような人生を歩んで行くのか、というように「何をするか」、「何をしないのか」、さらに、何かを行う場合には「どうしてそれを行うのか」ということが、次々問われる状況に置かれるようになります。つまり、これまでの「How to do」から「What to do」、さらに「Why we do」を問われるようになります。

私は、これまでの 35 年余りの教員生活における学生諸君との深い関わりのなかで、この「How to do」から「What to do」、「Why we do」へのモードの切り替え、つまり、受け身的な日常の過ごし方から、自らの判断で道を切り開いていくことが求められるモードへの対応が困難な学生の数が、昨今、増えてきていることを実感しています。

現代社会において、人類は、地球環境の悪化、資源の枯渇、宗教や民族間対立など、地球規模の複雑な課題に直面しています。これらの困難な課題に挑んでいくためには、いったい何をしたらよいのか、なぜそれをするのか、何のためにそれを行うのか、場合によっては敢えて行わないのかが、問われるようになってきています。つまり、「What to do」、「Why we do」を考える力をもった人材を社会が強く求めるようになっていきます。

そのために大阪大学は、限定された領域に関する専門的な知識ばかりを深めるのではなく、広い視野での俯瞰力をも持ち合わせた人材を育てるべく、今後さらなる教育改革を行っていきます。

ただし、最も大切なことは、皆さん一人ひとりが本日の入学式を契機に自らの意識を改革して、「What to do」、「Why we do」へのモード切り替えを行っていただくことだと考えます。

そして、その新たなモードへのアクセルを踏むのに重要な役割を果たすのが、先程お話ししました「教養」、「デザイン力」、「国際性」、「コミュニケーション力」の四つの力を高めることであることは申すまでもありません。

今後への期待

今日のこの日の感激と初心を忘れず、大阪大学の学生としての自覚と誇りを持って、自分を磨く努力をしつつ学生生活、大学院生生活を送ってください。また、皆さんの中には、今日から大阪大学との付き合いが始まる方が多くいらっしゃいますが、その関係は学部卒業後、大学院修了後もずっと続くこととなります。ご家族の皆さまにおかれましても、大阪大学が身近な存在になったことと存じます。是非、大阪大学への

ご支援、ご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

以上で私の告辞とさせていただきます。学生の皆さん、ご出席の皆さま、本日は誠に
おめでとうございます。

2016年（平成28年）4月4日

大阪大学総長
西尾 章治郎